カトリック幟町教会報
平和の鐘
2018年
8月
No.492

今も私たちの心に響く言葉

シスター 小野島 照子

「平和の巡礼者として」この世界平和記念聖堂を訪れた皆様、ようこそ広島へ！ 1981年にこの地を訪れてくださったヨハネ・パウロ二世教皇様が、世界に向けて発信された平和アピールは、今も私達に向けられた言葉として皆の心に響いています。

「戦争は人間の仕業です。戦争は人間の生命の破棄です。戦争は死です。」
（1981年平和アピール）

この平和アピールを日々心に留めて、今の私達に何が求められているのかを共に祈りの中で神に問い続け、生き方を持って応答できるよう切望しています。今も、世界のあちこちで戦争や内乱で、たくさんの命が奪われています。世界は、経済格差によって社会生活の行き止まりを生み出し、想像を絶するほどの人間の傲慢さと残虐性を露わにした世界の現実を前に、平和の巡礼者である私達に問われていることは何でしょうか？

「過去を振り返ることは、将来に対する責任をになうことです」

しかし今、広島、長崎が体験した原爆や戦争の恐ろしさを伝える人も少なくなり、多くの人々は日常生活に追われ、しかも何不自由なく生活できる環境に恵まれた人々は、過去を振り返ることなく日々を過ごし、将来に対する責任感も薄れているのでは？ 戦争で何をしたか反省することもなく歩み、過去の過ちから学ぶことなく、また同じ過ちを繰り返します。今こそ真相究明と過去の検証が求められています。平和公園の慰霊碑に刻まれた**「過ちは繰り返しません」**との誓いが空文化しつつあり、今なお、「戦争責任を果たしたかどうか」の議論がなされます。加害者は済んだと言い、被害者は済んでいないと言います。キリストの償いの業は、全人類の心に沁みとおる寛大な慈しみを示しています。私達も、平和の巡礼者として、人々が受けた苦しみ、また今なお受けている苦しみに寄り添えるよう、共感できる心を願い求めたいものです。

「ヒロシマを考えることは平和に対しての責任をになうことです。」

廃墟から立ち上がったヒロシマが、世界中から訪れる「平和の巡礼地」となっています。「廃墟となった軍都廣島から平和都市への変容を成し遂げたヒロシマに希望と力をもらう」と内乱で苦しむ国の人々が広島の地を訪れて感動の言葉を述べられます。日本だけでなくアジアの国々で多くの命を奪った過去の戦争から、私達は何を学び、後輩たちに何を残そうとしているのか？ 今一度、皆で照らしを祈り求め続けましょう。

2018 年度

新しいメンバーで スタートしました

ご挨拶

宣教司牧評議会評議員（信徒代表）
ＹＥ

2018 年ご復活の主日から私の信徒代表としての役割がスタートしました。振り返ってみると、私が 20 代初め頃に日曜学校の先生として神父様のお手伝いをする役割をいただいたのが共同体での使徒職の始まりだったと思います。その後、夫の仕事の関係で転居が多く、幾つかの教会に所属しましたが、役割を任される度に、この教会での使徒職と考え、共同体の一員として奉仕して来ました。

現在、地域社会の中での私個人の使徒職は、ソーシャルワーカーとしてホームレス等の生活困窮者の方々を支援することです。奉仕活動なのですべて無報酬ですが活動団体の仲間と一緒に、ホームレスの方に入浴や昼食、着替えを提供、仕事や家探しを手伝っています。諸事情から「今夜寝る家も無くお金が無いので食物を買えないし、助けてくれる家族もいない」という人には、３か月～半年くらいシェルターで暮らしていただきながら、その間にご本人と相談し福祉の制度に繋ぎ、地域で暮らせるよう支援しています。そのため、本来の自分の仕事と地域での使徒職、信徒代表としての教会内の使徒職のため、少し忙しくなることがありますが、幟町教会では多くの信徒の方々がそれぞれ役割を担ってくださっていますので、私もその中の一人として任された役割を果たしていきます。

荻神父様は「みんなで協力して素晴らしい教会へと成長していきたい」と言われます。荻神父様の想いが実現するよう信徒の皆様とご一緒に奉仕していきたいと思います。

よろしくお願いします。

平成30年7月豪雨で被害に遭われた方々への
支援とお祈りをお願いします

7 月 6 日～7 日に広島をはじめ、広い地域を襲った豪雨により、多くの命、建物などが奪われ、今なお支援が必要な方々がいます。

皆さまのご支援とお祈りをお願いします。

安芸郡坂町の様子（Hさん撮影）

安芸郡熊野町の様子（Iさん撮影）

安芸区中野東の様子。重機が入り、昼夜を徹しての復旧工事中の2号線（Nさん撮影）

7 月 9 日、瀬野川の障害者施設に入所している息子を迎えに行った。
足元の国道 2 号線が陥没。避難勧告を受けていた。朝、出発し、到着したのは日が暮れてから。交通手段が寸断され、「人も食料も確保できない」とのことで、「無期家庭待機」は、10 日間となった。
･･･自身が被災されながらも出勤されている職員も居られた。（の）

東広島市の様子

カトリック広島司教区情報サイト（http://www.hiroshima-diocese.net）にて、活動報告等が紹介されています

堅信おめでとうございます

5 月 20 日、35 人が堅信を受けられ、信仰を胸に新しい一歩を踏み出しました。皆さま一緒に平和の使徒として歩んでいきましょう。

受洗おめでとうございます

6 月 3 日、かわいい家族が仲間入りしました。

（1 歳）
（南ブロック・竹屋地区）

編集後記　「西日本豪雨」

思いもよらない災害が身近に起きました。日が経つごとに状況が明らかになり、誰もが日常の生活から引き離されたことと思います。警報が出て、緊急速報で避難指示が出ていても「まさか我が家が」という人が多かったようです。これから復旧にどれだけかかるのかはわかりませんが、同じ状況が再度起こらないとは限りません。自分自身の危機管理の考えを見直し、災害に備えましょう。（な）

カトリック幟町教会

〒730-0016　広島市中区幟町 4 番 42 号
電話　082-221-0621
ファクス　082-221-8486
ホームページ　http://noboricho.catholic.hiroshima.jp

ミサの時間

日曜日　7:30、9:30、14:30～（英語）
第 1 日曜日　16:00（ポルトガル語）
第 3 日曜日　11:00（ベトナム語）
月の最後の日曜日　17:00（スペイン語）
平日　7:00　　金曜日　7:00、10:00
土曜日 7:00、18:00（主日）

主任司祭　荻 喜代治 神父
助任司祭　服部大介 神父（教区司祭）　バート神父（淳心会）
協力司祭　ベッラ・アルベルト 神父（ミラノ外国宣教会）

シスター　小野島照子（援助修道会）